

ロザンネ・フィリップペンズ

ソロ・ヴァイオリンのタベ

トークを交えた
演奏が大好評！

Program

H.I.von ビーバー H.I.von Biber (1644-1704)

パッサカリア ト短調

ロザリオのソナタ集より

Mystery/Rosary Sonatas: Passacaglia in G minor (1676)

J.S. バッハ J.S. Bach (1685-1750)

無伴奏ヴァイオリン・パルティータ

第2番 ニ短調 BWV1004

Partita No.2 in D minor BWV1004

G. エネスク G. Enescu (1881-1955)

ルーマニアの様式による歌

Aires dans le genre Roumain

E. イザイ E. Ysaÿe (1858-1931)

無伴奏ヴァイオリン・ソナタ

第3番 ニ短調 op.27-3 「バラード」

Sonata No.3 in D minor, op.27-3 "Ballade"

F. クライスラー F. Kreisler (1875-1962)

レチタティーヴォと

スケルツォ・カプリース op.6

Recitativo et Scherzo Caprice, op.6

ジャニーヌ・ヤンセンから
そのストラディバリウスを引き継いだ
オランダ期待の注目のヴァイオリニスト
今年の初来日公演の好評を受け、

Rosanne Philippens Violin Solo Recital

2025年6月10日 火 開演19:00

京都コンサートホール アンサンブルホールムラタ

チケット *税込
(全指定席)

一般 5,000円 | 会員 4,500円

2月16日(日)
発売開始

会員発売日
2月9日(日)

会員: 京都コンサートホール・ロームシアター京都
clubと京響友の会会員が対象

お問合せ
電話予約

京都コンサートホール

075-711-3231 (10:00~17:00/第1・第3月曜休館 ※休日の場合は翌平日)
<https://kyotoconcerthall.org/ticket/>

プレイガイド

ロームシアター京都

075-746-3201 (10:00~17:00/年中無休 ※臨時休館日等により変更の場合あり)

●主催: (株)日本アーティスト ●共催: 京都コンサートホール(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) / 京都市 ●後援: 村田機械株式会社



京都コンサートホール
KYOTO CONCERT HALL

Rosanne Philippens

高い技巧、透明感のある美音、テーマを構築する頭脳、
三拍子揃った演奏家だ。

(モーストリークラシック誌 萩谷由喜子氏評より)

ロザンネ・フィリップペンスは並外れたコミュニケーターであり、生来の音楽性と、音楽制作への喜びと誠実なアプローチを備えている。彼女の演奏は洗練され、活気に満ち、深遠であり、オランダの日報紙 De Telegraaf では「エネルギーで繊細で完璧」と表現されている。

彼女はソリストとして、また室内楽奏者としてオランダをはじめヨーロッパの主要なホールで幅広く国際的な演奏活動をしている。コロナ禍の最も暗い時期に、彼女はそのエネルギーを新しいアンサンブル、フォンデル・ストリングスの創設に注ぎ込み、その成果はコンサートヘボウでの演奏、さらにハイドンとストラヴィンスキーの新録音につながりチャンネル・クラシックスからCDをリリース。

22/23 のハイライトには、ロイヤル・フィルハーモニーでのロンドン・デビュー、SWR コンスタンツとのドイツ・ツアー、BBC スコティッシュ交響楽団、ザンクトガレン交響楽団、アルスター管弦楽団等との再演、パリのクラシック・オ・ヴェール・フェスティバルでのフランス国立管弦楽団との共演が含まれる。

近年、彼女はイル・ド・フランス管弦楽団との弾き振り演奏、フィルハーモニー・ド・パリ、リヨン国立管弦楽団とは双方から即時に再招待を受けている。彼女は、デ・ドーレンのロッテルダム・フィルハーモニー、オランダ放送フィルハーモニーの権威ある土曜マチネ・シリーズ、ハーグとアムステルダム・コンセルトヘボウ・ホールの両方でレジデント・オーケストラと、バルセロナ交響楽団とはモーツァルト・フェスティバル 2021 の一環としてパラオ・デ・ラ・ムジカでそれぞれとソリストとして出演している。

ドイツでは 21/22 シーズン、テネリフェ交響楽団との共演でプリンツレーゲンテン劇場とリーダーハレ・シュトゥットガルトでデビュー、その他、ノールショッピング交響楽団、オーヴェルニュ管弦楽団、BBC スコティッシュ交響楽団にデビューし、BBC スコティッシュ交響楽団には即 22/23 にも再招待された。彼女が共演した指揮者には、ヤニック・ネゼ＝セガン、ローレンス・フォスター、オットー・タウスケ、ヤン・ヴィレム・デ・フリーント、アントニー・ヘルムス、ニコラス・コロソ、ロランス・エキルベイ、ケヴィン・ジョン・エドゥセイ等があげられる。

リサイタルや室内楽では、ヴィルデ・フラング、ジュリアン・クエンティン、ヴィキングル・オラフソン、アミハイ・グロス、カミュー・トマ、ゾルターン・フェイエルヴァーリなどのアーティストとヨーロッパ各地のホールやフェスティバルで定期的に演奏している。クラシック音楽の壁を打ち破ることを強く感じていた彼女は、独自のコンサートシリーズ「アムステルダム・サロン The Amsterdam Salon」を企画運営し、親密なサロンの雰囲気の中で、慎重に考え抜かれた様々な場所で高品質のコンサートを開催している。

チャンネル・クラシックスからリリースされている CD は全てが絶賛、ストラッド誌は彼女の CD “インサイト Insight” を「穏やかで強烈」「まばゆいばかりの演奏家」と評している。

彼女は、ハーグ王立音楽院、ベルリンのハンス・アイスラー・アカデミーでクーシェ・ワイゼンバーク、ヴェラ・ベス、アンナー・ビルスマ、ウルフ・ヴァーレンに師事、両校から最高の栄誉を受ける。2009 年オランダ全国ヴァイオリン・コンクール、2014 年フライブルク国際ヴァイオリン・コンクールでそれぞれ第 1 位に輝いている。

彼女はエリーゼ・マチルド財団より貸与されている 1727 年製バレー・ストラディヴァリウスを演奏している。



©Marco Borggreve

ロザンネ・フィリップペンス on Channel Classics

ヨーロッパのコンサート・ツアーから生まれた、静かに深く力強く心に触れるプログラム!



インサイト — 無伴奏リサイタル

ビーバー: パッサカリア 第1部 (ロザリオのソナタより)
フィリップペンス: 間奏曲1
J.S. バッハ: アルマンド&クーラント
(無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第2番より)
エネスク: サラバンド
J.S. バッハ: サラバンド&ジーク
(無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第2番より)
フィリップペンス: 間奏曲2
エネスク: ルーマニアの様式による歌
フィリップペンス: 間奏曲3
イザイ: バラード (無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第3番より)
ビーバー: パッサカリア 第2部 (ロザリオのソナタより)
フィリップペンス: 終曲
録音: 2018年
ロザンネ・フィリップペンス (ヴァイオリン) ●CCS41619

輸入販売元: ナクソス・ジャパン naxos.jp

すべて輸入盤、オープン価格。日本語解説はありません。



献呈 Dedications

— フォーレ、ショーン、クライスラー、サン＝サーンス、イザイの作品集

録音: 2016年 ●CCS38516 (CD)

ラブソディ — ラヴェル、バルトーク、フバイの作品集

録音: 2012年 ●CCSSA35013 (SACDハイブリッド・ディスク)

ハイドン: ヴァイオリン協奏曲第1番&第4番 ストラヴィンスキー:

バレエ音楽『妖精の接吻』〜ディヴェルティメント

録音: 2021年 ●CCS43921 (CD)

プロコフィエフ:

ヴァイオリン協奏曲第2番、無伴奏ヴァイオリン・ソナタ ほか

録音: 2016年 ●CCS39517 (CD)